

平成 23 年度大学職員情報化研究講習会～基礎講習コース～

夢探しキャンパス
～満足した卒業を目指して～

【課題認識】

テーマ設定にあたり、我々は各大学・部署の問題点を議論した。その結果「退学者数を減らしたい」という共通課題が浮かび上がった。そしてこの「退学問題」の原因についてさらに議論した結果、退学者が増える原因として「授業・学習への無関心」、「目標意識や意欲の欠如」、「大学での孤立」があげられた。我々は学生に主体性を持たせ、“夢や目標をもつことのできる大学作り”を実現することが問題解決につながると考え、「夢探しキャンパス～満足した卒業を目指して～」をテーマに設定した。

【討議内容】

昨今の傾向として、意欲や目標を持たずに入学してくる学生が多く、その結果授業や学習に対して意欲を持たず、退学へと繋がると考えた。このような背景から、学生が①入学後すぐに、②夢や目標を設定できる機会があれば満足した学生生活を送れるのではないかと議論した。そしてさらに、将来設計をする上で身近な人物からのアドバイスが効果的だと考え、③多くの先輩との交流が出来る場を作れないかと考えた。これにより目標設定についてより現実的に考えやすくなり、また学内での人と人との繋がりを作ることにより、いつでもアドバイスを受けられる人間関係を構築することができると考えた。

以上3点の事を踏まえ、入学直後から上級生とのコミュニケーションを通し、自らの力で夢や目標を設定できる主体性を身に付け、幅広い人間関係を築くことのできるプログラムの開発に取り組むことにした。

【提案内容】

～新入生と上級生のインタラクティブ・キャリア教育～

新入生向けと上級生向けのキャリア支援科目を実施し、これら2つの授業内で合同の交流会を設定し、新入生と上級生の対面での経験・情報の伝達を図る。キャリア支援科目の実施スケジュールについては、図1を参照のこと。なお、これは正式な授業科目としてカリキュラムに組み込む。また職員もこのプログラムに関わり、教職員と学生が一丸となって、学生のキャリア支援を行う授業を企画・運営する。

・新入生向け授業「キャリアデザイン」

(図1、上段参照)

対象年次は1年生で、開講期は前期で必修科目とする。一般的なキャリア教育を行うほかに、上級生との交流会を全体の1/3程度行う。また授業の初日と最終日にアンケート調査を実施し、学生の意識調査を行う。この授業を通し、上級生との交流の中で目標を見出す必要性を感じ、また目標とする先輩を見つけ、目標を設定・達成するために有効な可能性や選択肢を提示することによって、新入生の主体性を引き出すことを目的とする。

	4月		5月		6月		7月
キャリアデザイン (新入生向け)	事前アンケート 概要説明	将来設計	交流会	職業選択	交流会	留学・資格	事後アンケート記入
キャリアコーディネータ (上級生向け)	概要説明	発表準備		アフターケア 次回の準備		アフターケア 次回の準備	交流会

図1. キャリア支援科目のスケジュール

・上級生向け授業「キャリアコーディネート」(図1、下段参照)

対象年次は2~4年生で、開講期は前期で選択科目とする。主な授業内容はキャリアデザイン(新入生)との交流会の企画・運営である。さらに交流会での質問や相談に対するアフターケアも授業内容に組み込む。アフターケアの一例として、Web上のコミュニケーションツールを活用し(下記参照)上級生による新入生からの個別相談の受け付けなどを想定する。この授業を通し上級生は自身が新入生の頃に定めた目標の再確認を行い、また交流会の運営を通し、責任感やプレゼンテーション能力を養うなど、主体性のブラッシュアップを図ることを目的とする。

・Webコミュニケーションツール(図2、参照)

いつ、どんな環境においても学生が相談・対応が出来るよう、Web上で意見交換を行えるシステムを用意する。またこのツールに交流会の内容や感想・相談を書き込むことにより出欠を確認し、成績に加味するものとする。書き込みを質問の種類ごとに分け、関係部署に自動的にメールを配信するシステムにする。教職員は書き込みを随時チェックし、内容の校閲や相談内容に応じて学生サポートに活用する。その結果、上級生の経験や新入生が持ちやすい疑問とその回答を情報としてシステムに蓄積することで各部署との情報の共有が出来る。



図2. Webコミュニケーションツール

【評価指標】

・短期的な評価指標

- 新入生：事前、事後アンケート結果から、目標設定に対する意識の変化を調査する。
- 上級生：プログラムの反省、振り返りによる授業の改良点を発見する。

・中長期的な評価指標

- ①キャリアデザインで定めた目標の達成度合を確認する。
- ②卒業生の進路状況から、各自が定めた目標に近づいたかを調査する。
- ③退学者数の推移から、主体性をもって大学生活を送れた学生の割合が多くなったのかを判断する。

【今後の展望】

- ・評価結果に基づき次年度の2科目の授業内容の改善を行う(担当 教職員)。
- ・最初は試験的に1学部を導入し、効果が確認できれば、全学に展開する。
- ・全学展開後に大きな効果が認められれば、大学のアピールポイントとする。

【まとめ】

退学者を減らすことを目的とした授業プログラムを提案した。主体性を持ち、自ら夢や目標を見つけることができる学生の育成に主題を置きプログラムを設計した。教職員が学生に目標を与えるのではなく、学生が目標を見つけることができ、自立し成長する場を設ける点が本プログラムの最大の特徴である。我々はこの提案内容を通し、学生が学生の夢探しを応援できる大学、「夢探しキャンパス」の実現に向け努力を続けます。